

西日本女性担当者交流集会

沖縄県国頭村で 165 名が

沖縄県で労山の全国規模の集会が開かれるのは初めてとなる、「第 5 回西日本女性担当者交流集会」が、2月8日(土)～9日(日)に沖縄県・国頭村(くにがみそん)奥集落、やんばるの里で開催されました。参加者は全国連盟女性委員や西日本各地の女性委員会担当者 108 名、沖縄勤労者山の会 42 名、奥区民 15 名の合計 165 名でした。

国頭村は沖縄本島の北端、村の 95%が森林で、貴重なヤンバルクイナも生息している自然が豊かなところですが、23%をアメリカ軍海兵隊の演習場が占めています。沖縄本島最高峰の与那覇岳 503mや西銘岳などもここにあります。そうしたなかで開かれた集会は、「沖縄にも山がある！」「山を歩けば演習場」を全国の皆さんに実感してもらうことを大きなテーマとしました。

初日の 2 月 8 日は、奥小学校の体育館を会場に、まず 3 人の講師から講演を受けました。最初は沖縄国際大学講師の佐藤寛之さん。「ヤンバルの自然と生物」をテーマに琉球列島の成り立ちと多様な動植物について話されました。2 人目は奥集落の猪垣を研究している宮城邦昌さん。



そして 3 番目には、「イエティ同人」でヒマラヤの高峰登山に活躍し、現在は沖縄県に在住する雨宮節さんの話を聞きました。

雨宮さんは現在、「沖縄県山岳連盟」と「沖縄勤労者山の会」の会長を兼任し、米軍用機オスプレイの配備反対の先頭に立って奮闘しています。自宅上空をパイロットの顔が見えるくらい低空で飛び、爆音で話も聞こえないほどの訓練の実態を訴えました。つづいて、石田良恵さんから山筋ゴーゴー体操の実技指導がありました。



交流会第二部は奥区集落センターに移り、沖縄料理と舞台（沖縄の文化）で盛り上がりました。コラーゲンたっぷりのてびち（豚足）、独特の菌ごたえのミミガーあえ、家庭料理の定番ソーミンチャンプルー、舞台では沖縄舞踊、サンシン、最後はカチャーシーで会場が総立ちとなりました。

二日目の2月9日は、あいにくの雨となりましたが、西銘岳 420mに3組、尾西岳 272mに2組の交流登山が行われました。沖縄の山は高さこそありませんが、険しい急登もあり、何よりも他県にはない植生や自然の豊かさがあります。そして、米軍基地の厳しい現実も…。



集会を準備していただいた沖縄勤労者山の会の皆さん、現地の皆さん、そして西日本各地から沖縄の北端までお集まりいただいた皆さん、ありがとうございました。